

# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2012年12月期第2四半期決算概要

2012年8月15日

ベルサール八重洲

### 取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。



東燃ゼネラル石油株式会社

# 本日の予定

---

- 当社のミッションと戦略 武藤 潤
- 2012年12月期第2四半期決算概要および  
2012年12月期通期業績予想 D. R. セイボ
- 質疑応答

# 当社のミッションと戦略

---

東燃ゼネラル石油株式会社  
代表取締役社長

武藤 潤

# 新体制へのスムーズな移行

## □ 新組織への移行は計画通り

- エクソンモービル有限会社からEMGマーケティング合同会社（EMGM）へ商号変更し、当社グループへ統合
- 1月29日の合意に沿った、エクソンモービルからのEMGM持分取得の完了
- 6月1日に新経営体制へ移行し、一体運営と統合効果の早期実現を目指す
- 顧客、提携先からの力強いサポート



## □ 統合効果最大化に向けたスムーズな移行

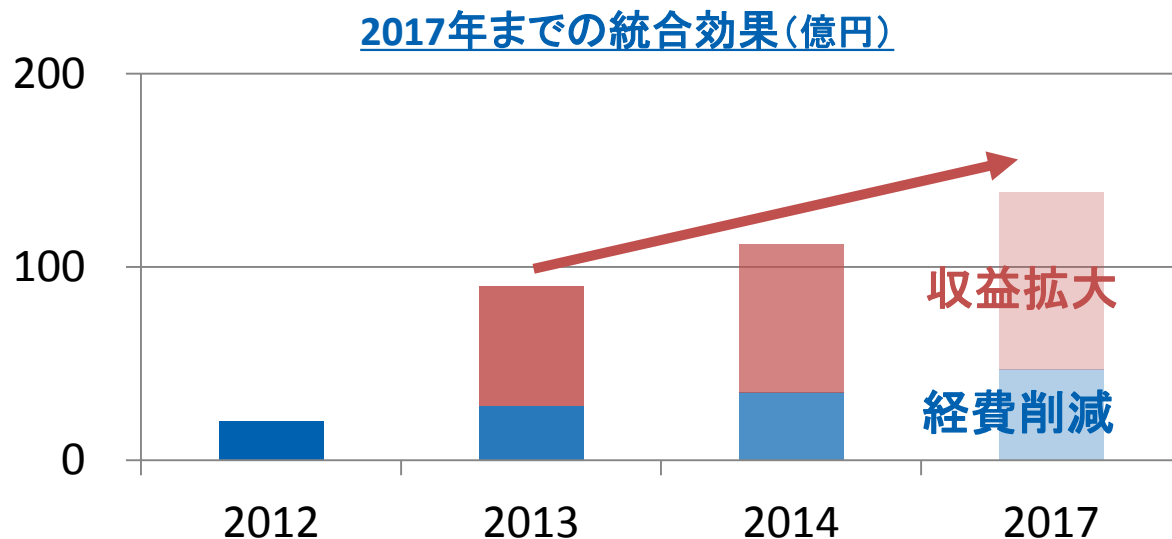
- ITシステムの構築によりプロセス変更に対応
- シンガポール支店の開設により原油・製品調達を拡充
- 業務管理部門の国内再設置によりカスタマーサポートを充実

## □ 一時的な移行コストは想定通り推移

- 下期の移行コストは40億円の見込み
- 完璧な操業を継続しつつ、早期の移行完了を目指す

# 統合効果

- 中期的な統合効果は年間約100億円の見込み
  - セブン-イレブン・ジャパンとの戦略的提携の拡大
  - 製油所のコスト競争力のさらなる強化
  - 間接費の削減
- 今日までの取組みで、中長期の統合効果は当初の想定を30%強上回る見通し
  - 収益拡大が期待できる案件の積み増し



# ミッションと戦略

## 当社グループの特長

- 安全操業
- 高い効率性
- 厳格な財務規律
- ブランド力
- 卓越した設備装置
- 優れた人材

## 市場環境

- 国内需要の減少
- 勝ち残り競争の激化
- 精製能力の有効利用
- 社会的要請への対応

## 選択と集中

### コアビジネスの強化

- 一体経営の促進
- コスト構造の最適化

### 競争力の強化

- 戦略的提携の拡充
- 投資機会の選択的 pursuit

### 顧客志向

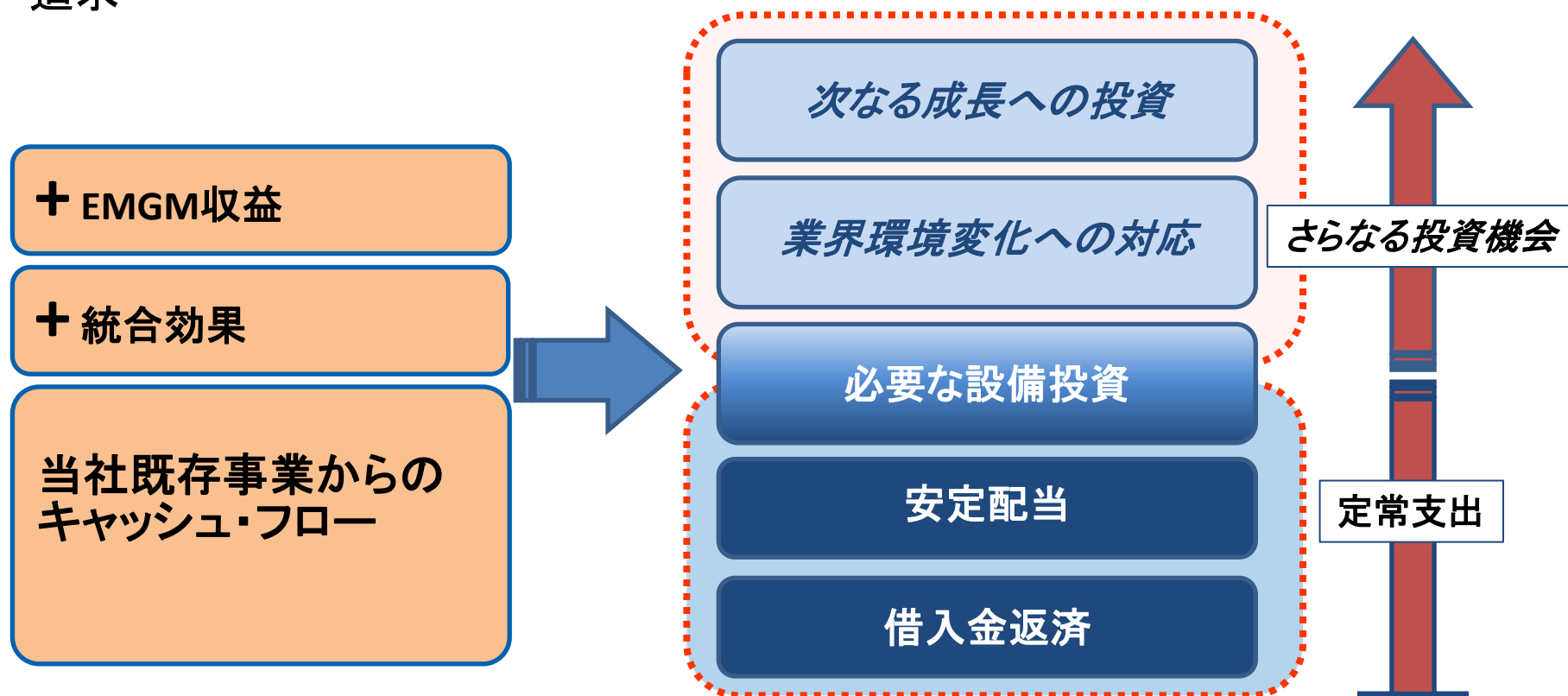
- テクノロジーを駆使した製品・小売プログラムの開発

日本で最も優れた  
石油・石油化学会社  
として

- 良質な製品の安定供給
- 付加価値の高いサービスの提供
- 顧客・株主・従業員  
地域社会への貢献

# 長期的視点からの経営上の重点ポイント

- 借入金返済と安定配当が基盤
- 厳格な判断基準に基づく選択的投資
- EMGM収益および統合効果からのキャッシュ・フローを加え、さらなる投資機会を追求



# 財務戦略

## □ 基本方針

- 長期安定配当、投資に必要な資金調達、格付けの維持
- 周期的な変動のある業界環境 - 強固な財務体質が肝要

## □ 株主資本

- 当社グループで保有する当社株式は6月1日に2億株に
- 当社株式を活用する場合は、株主価値を高める戦略的目的に
  - 公募増資は検討していない

## □ 借入

- 借入期間および固定・変動金利比率の最適化
- 社債発行も含め、低金利環境下における最適な長期借入の構成を追求



# Move Nippon.



# 2012年12月期第2四半期決算概要および通期業績予想

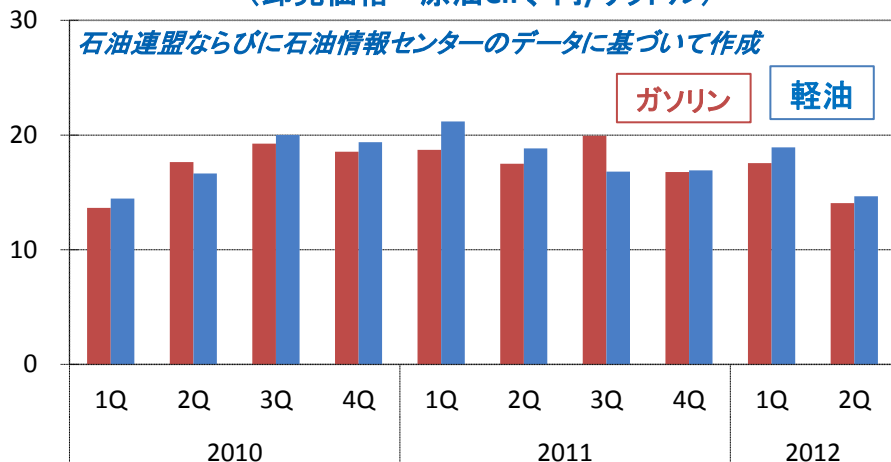
---

東燃ゼネラル石油株式会社  
取締役 財務管理本部

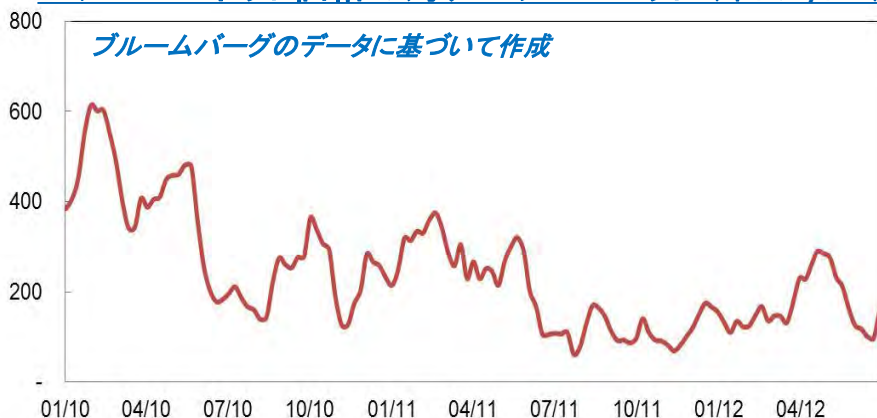
D. R. セイポ

# 2012年4-6月期の事業環境

## 国内石油製品マージンの推移 (卸売価格 - 原油CIF、円/リットル)



## エチレンスポット価格の対ナフサスプレッド (米ドル/トン)



## 石油事業

- 4-6月期の会計上マージンは1-3月期に比べ悪化
  - 原油コストを到着ベースで算出したマージンは積荷ベースで算出したマージンを下回る
  - 国内、輸出マージンともに低迷
- 1-6月期の国内石油製品需要は、ガソリン+1.4%、軽油+2.5%
  - 大震災の影響があった前年からの反動
  - 東北で10%超の軽油需要増

## 石油化学事業

- 4-6月期の基礎石油化学品マージンは低迷
  - 景気の不透明感および価格の先安感による需要の低迷
  - 景気停滞はオレフィン類、芳香族類の価格に波及し、対ナフサスプレッドは低迷

# 2012年1-6月期決算概要

- 営業利益は昨年同期比2,323億円減のマイナス144億円
  - 前期の在庫評価方法変更の影響がなくなったことにより、在庫評価益は2,103億円の減少
  - 操業の最適化を試みるも、石油・石油化学事業ともに損失
- バッテリーセパレーターフィルム合併事業解消による164億円の特別利益計上
- 当期純利益はマイナス14億円

億円	'11 1-6月期	'12 1-6月期	増減
売上高	13,055	<b>13,457</b>	402
営業利益	2,178	<b>-144</b>	-2,323
経常利益	2,187	<b>-142</b>	-2,330
特別損益	-2	<b>166</b>	167
当期純利益	1,300	<b>-14</b>	-1,314

## 営業利益の内訳

在庫評価損益	2,012	<b>-91</b>	-2,103
調整後営業利益	166	<b>-53</b>	-219
石油事業	89	<b>-40</b>	-128
石油化学事業	77	<b>-14</b>	-91

石油事業	
2Q11YTD	89
・マージン	-111
・数量	-1
・経費	-16
2Q12YTD	-40

石油化学事業	
2Q11YTD	77
・マージン/数量	-97
・経費	6
2Q12YTD	-14

# 2012年4-6月期営業利益増減の要因分析

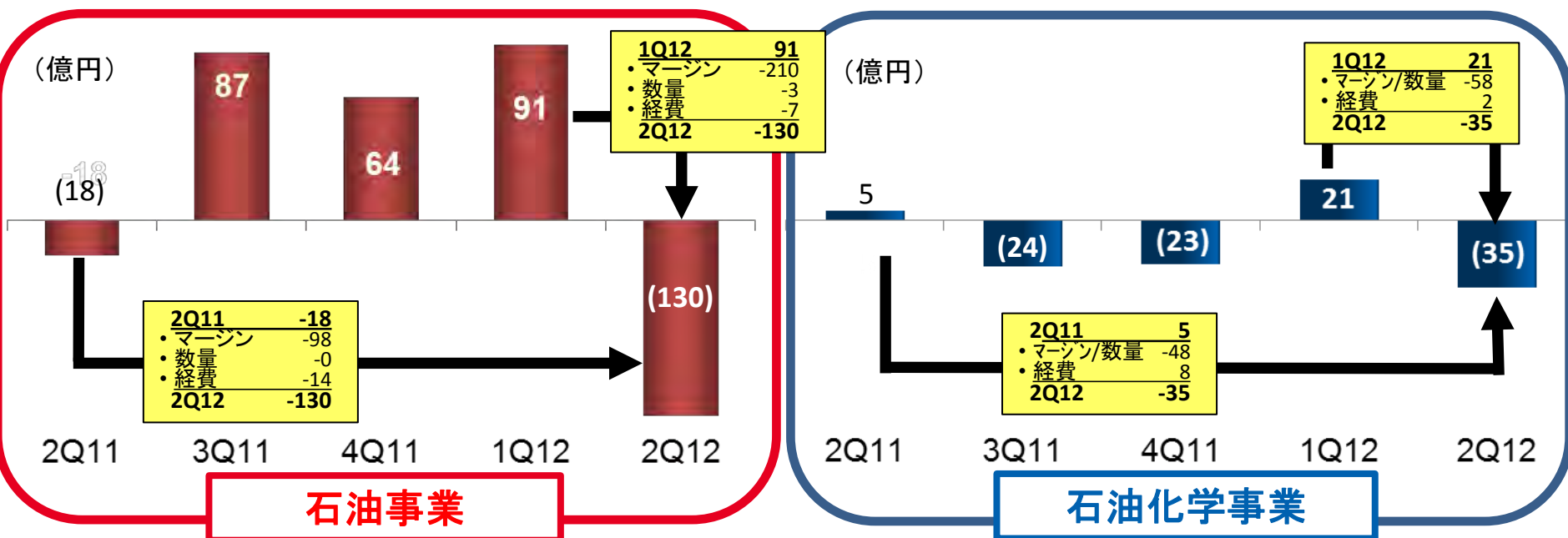
## 石油事業

- 1-3月期まで3四半期連続して好調であったが、マージンが損益分岐点を大きく下回る水準に低下
- 海外製品価格は、より早く原油価格の下落を反映するため、輸出マージンは特に低迷

## 石油化学事業

- オレフィン類及び芳香族類はマイナス、特殊化学品は引き続き利益を確保

### 調整後営業利益の四半期比較(2011年4-6月期～2012年4-6月期)



# 販売数量

	'11 1-6月	'12 1-6月	増減
<b>石油製品(千KL)</b>			
ガソリン	4,781	<b>4,644</b>	-2.9%
灯油	1,323	<b>1,429</b>	+8.0%
軽油	1,384	<b>1,352</b>	-2.3%
A重油	909	<b>838</b>	-7.8%
C重油	772	<b>837</b>	+8.5%
LPG・ジェット燃料・他	1,518	<b>1,425</b>	-6.1%
国内販売合計	10,686	<b>10,526</b>	-2.3%
輸出	1,727	<b>1,837</b>	+6.4%
その他 *	1,554	1,404	-9.7%
石油製品合計	13,967	<b>13,767</b>	-1.4%
<b>石油化学製品(千トン)</b>			
オレフィン類その他	771	<b>794</b>	+3.0%
芳香族類	283	<b>330</b>	+16.6%
特殊化学品	93	<b>98</b>	+5.0%
石油化学製品合計	1,147	1,222	+6.5%
設備稼働率 (常圧蒸留装置ベース)	67%	<b>67%</b>	-

増減
国内全体
+1.4%
+0.5%
+2.5%
-0.3%
+67.8%

- 本年5-6月の川崎工場大規模定期修理の影響により供給量が低下
- 石油化学製品の販売数量は、昨年1-6月期にあった和歌山・堺両工場での定期修理の反動により増加

\* 原油、潤滑油、国内のグループ会社間の転送取引などを含む

# EMGM取得に伴う財務的影響

- EMGマーケティング合同会社(EMGM)の貸借対照表は2012年6月30日より連結
  - EMGMの損益は7-9月期より連結される
- EMGMを含む新グループの売上高の増加は限定的
  - 当社の売上には元来EMGMに対する売上が含まれていたため、統合による売上の増加はおよそ10%程度の見込み
- EMGM持分取得の取引価格は3,832億円で、これには8千万株の当社株式および一部事業をエクソンモービルに譲渡した際に受領した790億円が含まれる
- のれんは3,385億円で、EMGM事業から得られる強力な将来のキャッシュ・フローを反映
  - 20年間の均等償却：年間償却額は169億円

(億円)

<b>取得原価</b>	<b>3,832</b>
取得価格	3,020
エクソンモービルからの受領代金	790
関連費用	22

<b>EMGMの時価純資産*</b>	<b>447</b>
当社株式	1,408
運転資本	-1,417
その他資産および負債	456

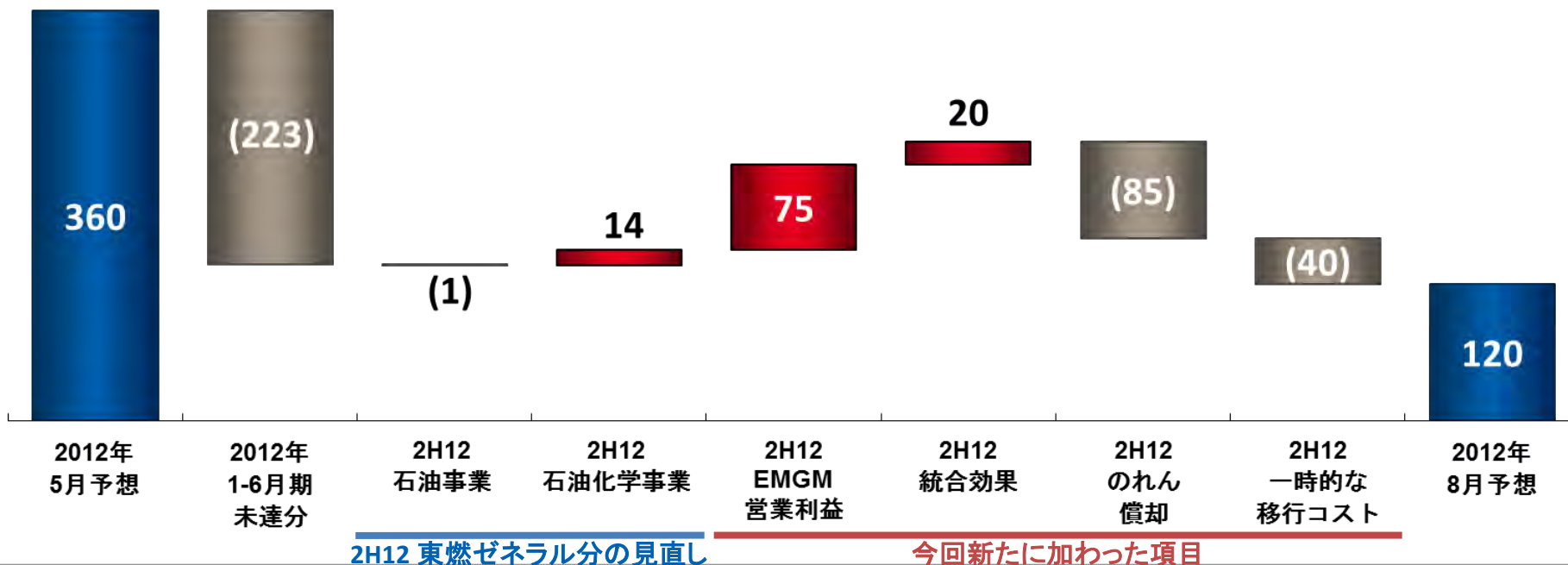
**のれん 3,385**

\* 少数株主持分は除く

# 新体制の2012年通期営業利益予想

- 2012年通期の営業利益予想は、1-6月期の実績および7-12月期の下記項目を反映
  - 石油および石油化学製品マージンは、ほぼ前回想定通り
  - EMGMの利益(75億円)および統合効果(20億円)
  - のれんの償却(85億円)
  - 一時的な移行コスト(40億円)

## 2012年通期営業利益予想 - 在庫評価損益を除く(億円)





# 新体制での2012年通期業績予想

## □ 7-12月期の予想の前提

- 売上高および在庫評価損益はドバイ原油価格 99米ドル/バレル、為替79円/米ドルが年末まで続くと仮定して算出
  - 在庫評価益91億円を見込み、通期ではゼロと想定
- 支払利息はおよそ15億円と仮定

## □ 2011年同様、1株当たり38円の配当予想は変更なし

億円	業績予想(5月発表)		'12 1-6月期 実績	業績予想 (今回発表) '12通期
	'12 1-6月期	'12通期		
売上高	14,000	29,000	13,457	<b>28,000</b>
営業利益	360	550	-144	<b>120</b>
経常利益	350	550	-142	<b>110</b>
特別損益	160	160	166	<b>170</b>
当期純利益	280	400	-14	<b>100</b>

### 営業利益の内訳

在庫評価損益	-190	-190	-91	<b>0</b>
調整後営業利益	170	360	-53	<b>120</b>
石油事業	140	300	-40	<b>90</b>
石油化学事業	30	60	-14	<b>30</b>

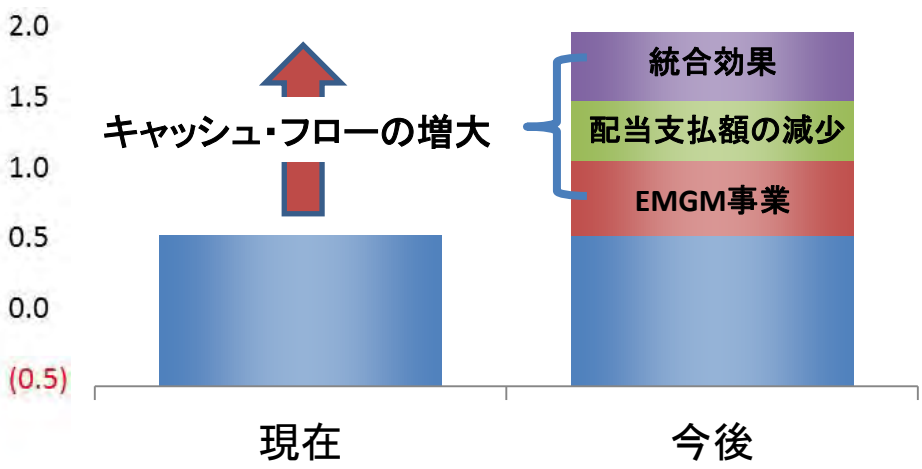
# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

- 2012年6月末のD/Eレシオは1.7  
年末に向けて改善する見込み
- EMGM取得によりキャッシュ・フローが拡大
- 株式数の減少により年間約80億円の配当  
支払額減少、引き続き安定配当を優先

	'12 1-6月期	
<b>フリー・キャッシュ・フロー*</b>	<b>-3,818</b>	
事業から得られるキャッシュ・フロー	-273	
BSF合弁事業解消によるキャッシュ・フロー	231	
EMGM持分取得	-3,776	
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,942</b>	
ネット借入金の増加など	4,049	
配当金の支払	-107	
<b>キャッシュ増(減)</b>	<b>124</b>	

\* 営業および投資活動によるキャッシュ・フローの合計

期末のネット借入、純資産およびD/Eレシオ  
(2011年-2013年以降)



\* 現金及び現金同等物を除く

---

# 補足資料

# 2012年連結業績予想の変動要因とその影響額

## □ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	注記
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	99	2012年7月平均
為替レート	円/米ドル	79	2012年7月平均

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

## □ 前提の変化に伴う営業利益への影響額(年間換算)

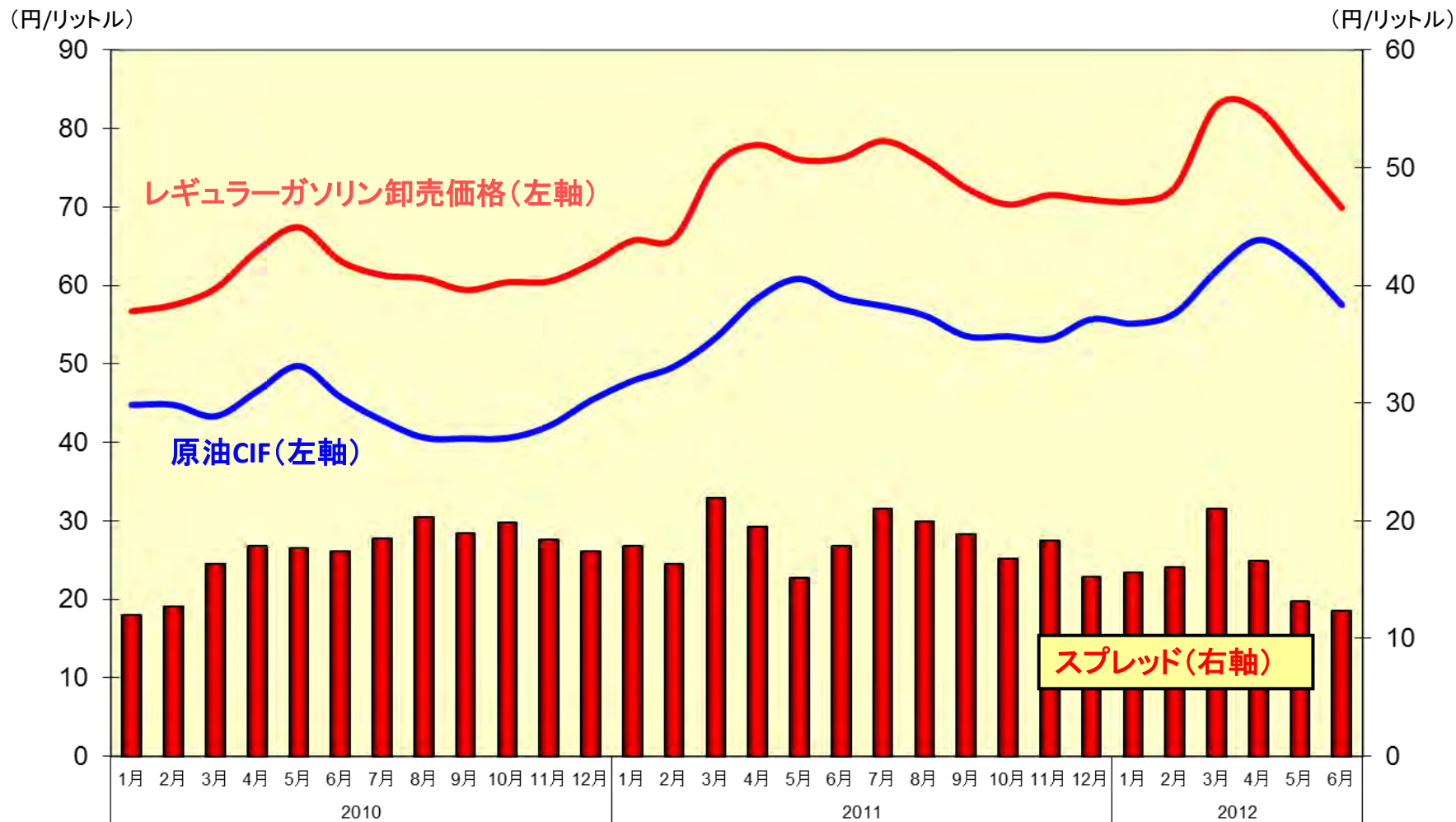
主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円) 営業利益 / 経常利益*1
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	10	190 / 210*2
為替レート	円/米ドル	10	- 230 / -250*2
石油精製マージン	円/リットル	1	330*3

\*1 営業外損益に含まれる極東石油工業の持分法利益(50%持分税引後)を含む

\*2 在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

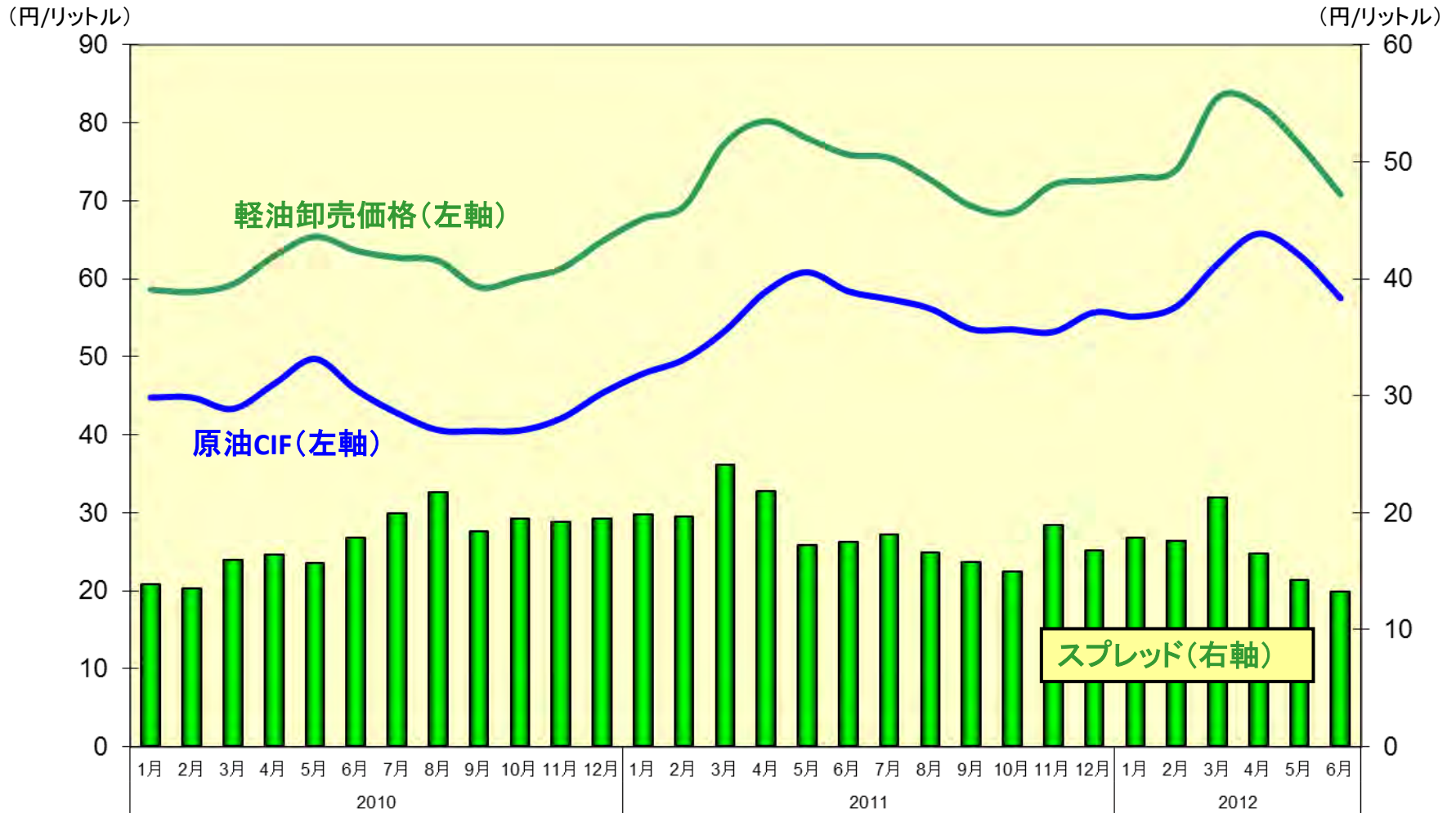
\*3 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

# 価格スプレッド（ガソリン卸売価格－原油CIF）



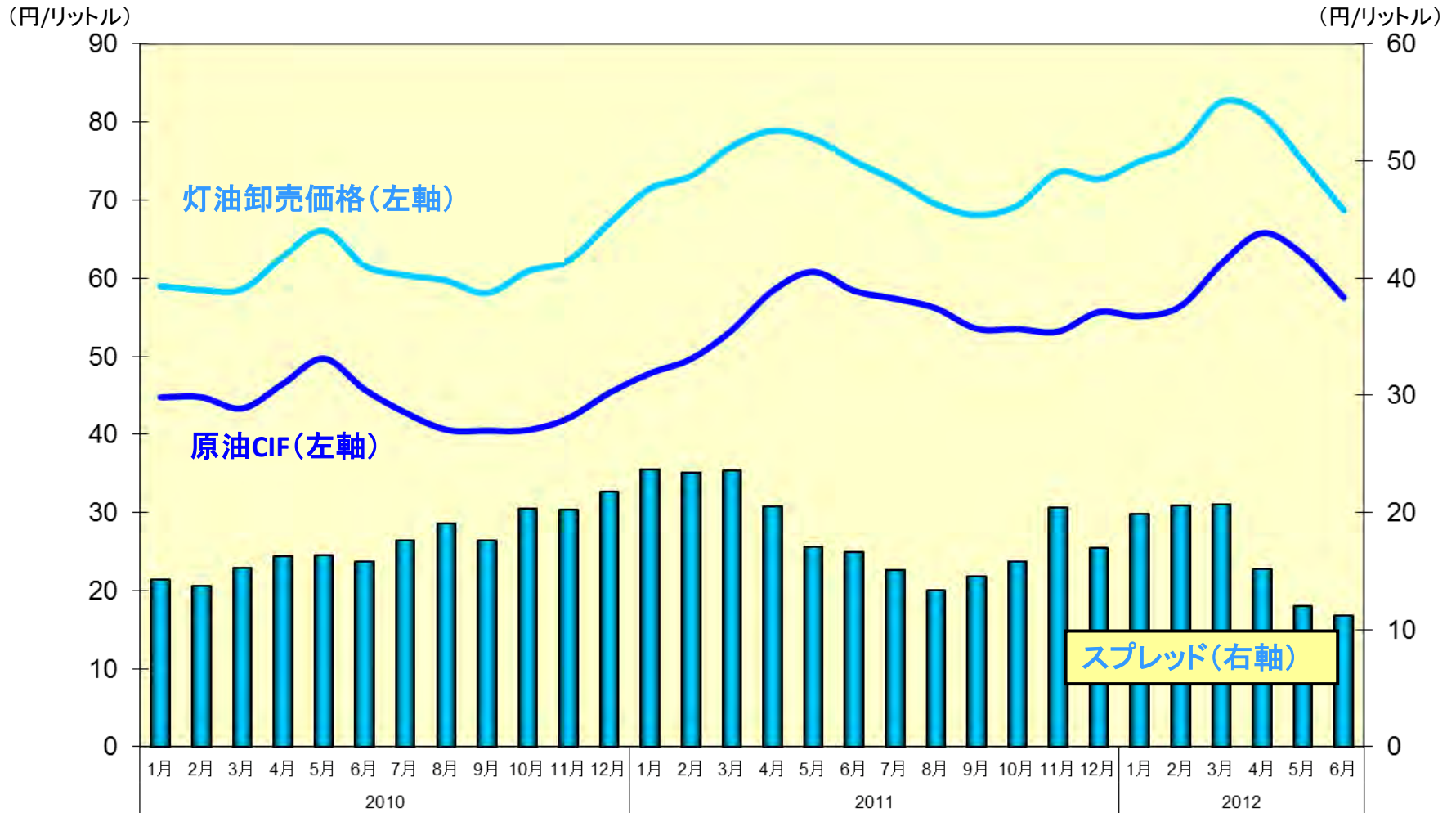
注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格－原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (灯油卸売価格－原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益内訳 (2010年 – 2012年第2四半期)

## 2012年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'12 1-3月期	'12 4-6月期	'12 7-9月期	'12 10-12月期	'12 通期	'12 1-6月期	'12 1-9月期
石油部門 (実質)	91	-130				-40	
石油化学部門 (実質)	21	-35				-14	
在庫関連損益	192	-283				-91	
総合計	304	-448				-144	

## 2011年

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'11 1-6月期	'11 1-9月期
石油部門 (実質)	107	-18	87	64	241	89	177
石油化学部門 (実質)	72	5	-24	-23	30	77	53
在庫関連損益	1,732	280	-122	1	1,891	2,012	1,890
総合計	1,911	267	-59	42	2,162	2,178	2,120

## 2010年

営業利益内訳	'10 1-3月期	'10 4-6月期	'10 7-9月期	'10 10-12月期	'10 通期	'10 1-6月期	'10 1-9月期
石油部門 (実質)	-48	23	241	181	397	-25	217
石油化学部門	64	13	-55	-3	20	78	23
在庫関連損益	187	-94	40	-135	-2	93	133
原油コスト認識時点の差による影響	-20	10	50	-120	-80	-10	40
総合計	184	-47	276	-77	335	136	412